

Angels' Voice

「バーチャル」から「リアル」をのぞむ

日本聖公会神戸教区オルガニスト
ミリアム 伊藤 純子

＜リアルにまさるものはナン？＞

この一年間、世の中が変わりました。礼拝も音楽も何もかもをバーチャル(オンライン上の繋がり)に頼る日々となりました。バーチャルに関わる中で、大きな疑問と気づきが与えられました。

過去の私は、バーチャルは自分から一番遠くに存在するものと感じながら暮らしていました。バーチャルでなくリアルな体験でしか得られないものを自分は大切にしているという思いから、どこかでバーチャルをさげすんでいました。

しかし実際は、バーチャルだからこそ感じ取れるものや気付けるものが、確かにありました。具体的には、オンライン上の礼拝や音楽を体験する中で、まるでその場に居るかのような臨場感と、その空間を満たす確かな力が、自分の心をわしづかみにする瞬間があったのです。それには心底驚きました。そこで、バーチャルで心が動く理由はどこにあるのか、考えてみることにしました。

＜想像力＞

その答えは、想像力であるのではないのでしょうか。バーチャルで繋がっていると、相手の世界と繋がろうとする能動的な気持ちが自然に起きるように思います。

繋がろうと耳を傾けようとしてはじめて、普段当たり前前に思っていたリアルの有難みが増します。つまり肌感覚や空気感の欠如を補おうと、自分の想像力を総動員して、見えないものを見たいという自然な想いが生まれるのではないのでしょうか。

またバーチャルで繋がっている時間は、リアルよりも情報が少ない場合が多いです。少ない情報の中から、想像力を膨らませようとすることになるのでしょう。

＜リアルって、なに？＞

今ここにあって目に見えるものだけが、リアルなのでしょうか？日々の生活はたくさんの外部情報に満ちあふれています。目の前のことに対峙することに追われて

いると、私の場合、情報過多のために自分の心の処理能力が追い付かなくなることがあります。そうすると大切なものを見失います。本当はそこにあるのに、そこにあるもののほんの一部しか見えていないこともあります。

リアルの中に居てリアルを見ているはずなのに、実際には見えなくなってしまっていることがあります。耳を傾けることを忘れ、目の前の小さな具象にとらわれて、その奥に潜む声が耳に入らなくなるのです。

＜逢えない時間が教えてくれるもの＞

人間関係でも、日々近くに居ることによって見えてくるものと、見えなくなってしまうものがあるとします。表面的なところで売り言葉に買い言葉となったり、些末なことが気になって自分の心が支配されたりすることもあります。

一年前までは日常的に顔を合わせていたあの人もこの人にも、今はずっと逢えない状況です。逢えないのですから、じっと想うことでしか関係性は築けません。これが想像力です。離れたからこそ、その人のことが見えてくる事もありますし、天に送ってからのほうが、より近さを感じることも実際あります。それはおのずと、見えないものを見ようと、耳を傾ける作業を行っているからではないのでしょうか。

＜見えないものを＞

「心の目で見て心の耳で聴く」という言葉がありますが、見えないものを見聴きすることは難しいです。しかし一方で実は極めてシンプルなことかも知れません。見えないものに心を寄せようとする事は、「祈り」に通じるものがあります。見えないものを見ようとする助けのために、神様は音楽を与えてくださったのだと思います。

想像力とは感じ取る力。反意語は固定観念ではないのでしょうか。想像力の手助けをしてくれる力と役割が、音楽にはあります。礼拝に音楽が何故必要か、という答えが、そこにはありそうです。

「想像」が「創造」へと導かれることを祈りつつ、この世に音楽を与えてくださった神様に心から感謝したいと思います。

「礼拝に用いる聖歌についてのアンケート 結果」

2020 年 4 月の緊急事態宣言発出以降、聖歌を思いっきり歌うことができない日が続いております。そこで各教会でどのように音楽を用いているのかアンケートを取りました。ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。FAX で送ってくださった方にはすぐに御礼の返信ができませんでした。この場を借りて、御礼申し上げます。

〈設問〉

1. 礼拝において聖歌の用い方はどのようになったか

- ① それまでと変わらない方法で歌っている
- ② 小さな声で歌っている
- ③ 歌唱はせず、オルガンやキーボード等で奏楽のみ行なっている
- ④ 歌唱も奏楽も無しにしている
- ⑤ その他

2. 奏楽の面で工夫されていることや、困っていることなど

*回答は 3 月 21 日現在の状況となります。

*原文ママです。



教会名	設問1の回答	設問2の回答
神戸聖ミカエル教会	公禱があるときは④ないときは③	工夫していること： <ul style="list-style-type: none"> ・聖歌の世界観が感じ取られ、メロディラインが聞き取りやすい奏楽を目指す工夫 ・聖堂の空気を変えるような、その聖歌の持つメッセージや力が発揮されるための工夫 ・音楽の力によって、自分を含め集う人々にポジティブな働きが生まれるための工夫 困っていること： <ul style="list-style-type: none"> ・実際に司祭と奏楽者達が一堂に会せる機会が持てないため、コミュニケーションが難しいこと ・礼拝での奏楽が行われているのに、レッスンを行うことができないこと ・現地のオルガンで練習をすることに、大きく制限があること
神戸聖ペテロ教会	③	聖歌は歌わないのですが、前奏、福音書朗読後、献金、退堂のときに 1 節だけ弾くようにしています。
神戸昇天教会	③	礼拝もお休みの中、大きな声で賛美出来ない事は大変淋しく思っています。昇天教会では、前奏、献金、後奏と 3 曲オルガンだけで奏楽しています。気をつけているのは、教会暦を大切にしています。その中でよく用いている聖歌を弾いています。
神戸聖ヨハネ教会	③	聖餐式前部だけの礼拝を行っており、前奏、後奏の他、福音書の前と奉献の際にオルガン奏楽をしています。選曲はオルガニストが行っています。
明石聖マリア・マグダレン教会	③ 昨年のクリスマス・イブに 7 つの日課とキャロルを行いました、その際には声を抑えて歌いました。	

教会名	設問1の回答	設問2の回答
姫路顕栄教会	②マスク着用のまま、口 ずさむ程度で歌うように 指示している ⑤以前は礼拝で4曲聖歌 を用いていたが、福音書 前の聖歌を止めて3曲に している。	陪餐を行わず、また献金袋を回さないで奉献の際 の聖歌は短いものを選んで（テゼの曲など）
洲本眞光教会	④	
岡山聖オーガスチン教会	③	奏楽はすべて、聖歌にして、心の中で賛美して いただければとの思いで、礼拝の各場面に合わせて、亦、 主日の聖書に合わせて、亦、礼拝の進行に不都合の ないように、曲の長さを考えて聖歌を選ばせて頂い ております。主に賛美をお捧げできる日を心待ちに しております。
倉敷聖クリストファー教会	③	
福山諸聖徒教会	③	
広島復活教会	③	
広島呉信愛教会	②③	4/19～5/31、7回の主日はコロナ感染拡大の為、 礼拝中止となった。奏楽の中で聖歌の朗読を行っ た。最近になってやっとチャント、聖歌を用いて いる。
浜田基督教会	①基本的には変わりませ ん。マスク着用で席の間 隔を空けています。	聖歌は入退堂と奉献の3曲です。
松江基督教会	同上	聖歌は入退堂と奉献の3曲です。
広瀬基督教会一	同上	聖歌は入退堂の2曲です。
米子聖ニコラス教会	③1節のみ	聖歌伴奏は1節のみではあるが、週報に記載して ある番号を聖歌集で見ながら、歌詞の意味や曲を味 わう一時としていただきたいことを、教会委員会で 話し合い、信徒に伝えました。 奏楽者は、礼拝の流れ、司祭の動作に合わせて曲の 長さを調節すること、メロディがはっきりと聞こえ る様な音色を選ぶことに気をつけている。また、会 衆と共に賛美できない孤独な作業となることが不 安となり、弾きづらさがある。 歌声と一体となって、神様におささげする礼拝がで きることのありがたさを改めて感じています。
境復活教会	④	
鳥取聖ルカ教会	③	現在は、前奏・後奏と、入退堂時のみ聖歌の伴奏を しています。コロナ前は皆さんが歌う歌声に合わせ て、オルガンで聖歌を伴奏していたが、コロナ禍で 歌が歌えないので、一人でオルガンを弾いているこ とが孤独であると感じ、弾きづらい。
松山聖アンデレ教会	⑤礼拝開始5分前と退堂 時にヒムプレーヤーで1 曲ずつ聖歌を流すだけ(歌 わない)にしています。	

教会名	設問1の回答	設問2の回答
大洲聖公会	⑤礼拝開始5分前と退堂時にヒムプレーヤーで1曲ずつ聖歌を流すだけ(歌わない)にしています。	
高松聖ヤコブ教会	③	礼拝の中で聖歌を歌唱することが困難な状況になりましたので、奉獻だけでなく前奏・聖餐・後奏の曲として積極的に聖歌をとり入れています。声に出して歌えなくても会衆の皆様が心を一つにするため聖歌を奏樂することが重要と考えています。
高知聖パウロ教会	③	聖歌は全部ではなく、入堂してチャンセルに上がったタイミング、献金を集めてお祈りの準備ができたから・・・なので、1節で終わるときもあれば2節までになるときもあるといった感じです。
徳島インマヌエル教会	⑤マスクをして1、2番だけ歌っている	
徳島聖テモテ教会	③日曜日8時からのみ言葉の礼拝と、唱詠タの礼拝は、配信用に行っている無会衆でのYoutubeライブ配信のため、従来通りの奏樂と歌唱を用いています。	8時のライブ配信用の聖歌番号は週報でアナウンスされているので、10時30分の聖歌なしの礼拝でも、なるべく同じ聖歌を奏樂に使い、曲を想像しやすいようにしています。

「パイプオルガン委員会制作 オルガンの調べ」

現在、パイプオルガン委員会では、youtubeで教区オルガニストの伊藤純子姉による演奏の動画を配信しております。最新作は、教区内の色々な教会よりお寄せ頂いた写真を用いたものが出来ました。ご協力下さった教会には心より感謝申し上げます。復活の喜びをオルガンの響きとともに楽しみください。

「Let's sing Easter!」



過去に配信しました

「ミカエル大聖堂のバッハ」、
「神戸聖ミカエル大聖堂のクリスマスキャロル」
も教会暦とは異なりますが、今でも
お楽しみいただけます。よろしければこちらどうぞ♪

「ミカエル大聖堂のバッハ」 「神戸聖ミカエル大聖堂の
クリスマスキャロル」



昨年夏に配信された教区信徒神学塾によるYouTube講座「コロナ禍の礼拝における聖歌」も是非ご覧ください。



パイプオルガン会報紙事務局（神戸教区事務所）
〒650-0011 神戸市中央区下山手通5丁目11番1号

☎078-351-5469 fax(078)382-1095

Email: aao52850@syd.odn.ne.jp

会報誌編集人

ハンナ 埜田 恵里 (神戸聖ヨハネ教会信徒)

マリア 福島 薫 (神戸聖ペテロ教会信徒)